



新発田市立紫雲寺小学校

学校だより 2月号

<http://shionjies.shibata.ed.jp> 平成24年2月21日

子育ては加点法で

紫雲寺小学校長 小林 幹雄

今年の大雪は、北極の温暖化の影響だそうです。天の恵みとは言え、毎日続く積雪にうんざりしてしまいます。学校の玄関前の雪山も松の枝まで届きました。春の足音が早く聞こえてこないのでしょうか。

全国的に猛威を振るっているインフルエンザですが、学校では幸いまだ流行の兆しが見えません。しかし、遅かれ早かれ流行すると思われます。うがいと手洗い、マスクの着用等で軽微に終わりたいものです。

「はやぶさ」と言えば、昨年、7年間、60億kmという気の遠くなるほどの距離の宇宙の旅を終え地球に惑星のサンプルを持ち帰った小惑星探査機のことです。このニュースは、世界中をあっと驚かせ、日本の技術の高さを示しました。このプロジェクトのマネージャーを務めた宇宙工学者 川口淳一郎さんの対談を目にする機会がありました。

『ものごとの評価では、失敗をカウントするのか、成功をカウントするのかによって

行動が変わってくる。失敗を評価することを「減点法」、成功を評価することを「加点法」という。失敗をカウントされる場合、「～だからこれはできない」「～になるからこれもできない」と、なるべく失敗をしないように心がけるようになる。すると、リスクを最小限にする手堅い結果になる（ローリスク・ローリターン）。一方、成功をカウントする場合、成功を多くしようと努力するようになり、ああすればできる、こうすればできると発想が前向きになり、新しい技術やものを創り出すことにつながる（ハイリスク・ハイリターン）。』という内容でした。

「はやぶさ」を成功に導いたのは、この「加点法」という考え方なのだそうです。この考え方による、新しい技術や世界初の試みが「はやぶさ」プロジェクトに盛り込まれ、大きな成功へとつながったというのです。帰還するまでの幾多の困難を乗り越えられたのはきっとこのような発想があったからなのでしょう。

では、子育てではどうでしょう。どちらかと言えば、我が子には、手堅く確実に生きていてほしいと考えるのではないのでしょうか。ハイリスク・ハイリターンな生き方を望む方は少ないと思います。しかし、加点法の子育てはお勧めです。できたことや過程を認め褒めることで、子どもは、「こうしたら できた」「ああすればできそうだ」と成功を目指して、前向きに生活していくようになります。すると、その子の長所が伸びていきます。長所が伸びると、短所は小さくなったり、隠れて目立たなくなっていくます。結果、全体として大きく伸びることになるのです。学校でも家庭でも加点法の教育を大切にしていきたいものです。

2月は「読めばいい月間」でした。図書委員会を中心に読書奨励の取組が行われ、14日の児童朝会では、年間読書ランキングの表彰が行われました。2年生の本間心温さんと廣井万結子さんはなんと一年間で500冊以上も読んだそうです。それぞれ、読書ファイナル賞と読書マックス賞が贈られました。また、年間50冊以上読んだ人が、71名もいました。たいへん嬉しいことです。読書は心を豊かにし、考える力を伸ばします。これからもたくさん読んでほしいものです。

6年生への感謝の活動も始まり、六送会の出し物の練習にも熱が入ってきました。3月2日の六送会では6年生への感謝の気持ちがあふれる会になると思います。どうぞ子どもたちの成長した姿を見においでください。お待ちしております。